

剣風



事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎 4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
<http://www.saitama-kendo.or.jp>
(編集責任者 佐藤義則)

第20号 令和5(2023)年8月1日発行

(題字 元会長 野澤 治雄)



就任あいさつ

公益財団法人 埼玉県剣道連盟 会長 栗原 憲一

この度、山中茂樹会長の後任として公益財団法人 埼玉県剣道連盟会長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

平成17年より理事、常任理事、業務執行理事、副会長として本連盟の業務に携わらせていただきましたが、今まで以上の責任の重さを痛感しています。

数年来の新型コロナウイルス感染症による閉塞感からようやく明るい兆しが見えてきた社会や剣道界ですが、本連盟70年の実績を踏まえながら、新たに将来へ向けて「裾野はより広く、頂きはより高く」を目標に事業を展開していくことが重要であると考えています。

それには理事による4部会である①総務部会（財政、剣道人口減少対策、ホームページの充実）、②公1部会（講習会、審査会、県内大会等）、③公2部会（予選会、選手の育成強化全般）、④広報啓発部会（剣風発刊、広報活動）の事業方針・内容・活動の見直しや将来に向けてより発展していくために幼少年に対する剣道育成の取り組み、対外的選手の強化、審判技術・剣技の向上、高齢者の生涯剣道の推進等が課題として考えられます。そこで、課題解決のために加盟団体と連携を密にし、協力体制を万全とし、本連盟が強固になる必要があると思います。

最後に、剣道の理念、剣道修練の心構え、剣道指導の心構えを指針として、幼少年から高齢者までの男女全ての剣道、居合道、杖道の愛好者が真剣に楽しく実践することで自身の生活の活力になってほしいと願っています。

今後、会員の皆様の御理解、御協力をいただき本連盟の更なる発展に力添えをいただきますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

剣道に魅せられて

—女性業務執行理事として—

業務執行理事 佐藤 理恵



桜の花が美しく色づく季節になると武道好きな両親に背中を押され、勇気を出して警察学校道場で剣道の門をたたいた中学生の頃を懐かしく思い出します。

当時、女子の剣道は珍しい時代でした。男女隔たりのない厳しい指導に驚きもありましたが剣道の凛々しい美しさに、ただただ魅了されました。夢中で稽古に励んだ高校時代を経て東京家政大学に進学すると、有志と共に剣道部創部を目標にまずは同好会を発足。さらには指導者を求めて全剣連事務所を訪ねました。幸運なことに榎本正義先生が私達の熱意に真摯に向き合ってください、剣道の基本とは何かを御指導いただくことになりました。

しかし正式に関東学生剣道連盟に加盟が認められ、これからという時に先生が急逝されました。先生亡き後、後進の指導の立場となり、仕事の傍ら剣道に邁進しました。山あり谷ありを乗り越えて、昨年創部50周年を迎えられたことは感無量の極みです。

「継続は力なり」を信条に難関とされた6段審査においてはなり振り構わず挑戦した結果10回目で合格。この瞬間の喜びは言い尽くせません。2年後、思いがけない大きな舞台に立つ機会に恵まれることになりました。

平成6年フランスで第9回世界剣道選手権大会が開催されるに当たり、第一回日本女子剣道使節団15名が結成され光栄にも主将兼大将として選出されたのです。初めて日本女子剣道を世界で披露する目的としてプレッシャーの中で挑んだ欧州男女混成チームとの特別親善試合は世界の剣士から満場の拍手を浴び称讃を受けました。改めて日本の伝統文化の剣道を誇りに感じると共に自分の役目を果たせたことの喜びは大きな自信となりました。

この頃、日本の女子剣道人口増加に伴い、国体はじめ各方面で女子の大会が開催されることになり、活躍の場が一気に広がる時期でもありました。

平成9年初の成年女子の部が国体に加わり埼玉県代表の大将として出場できました。関東ブロック予選会では長く苦しい延長戦の末3位となり出場権を獲得。その後、本戦に向けて県内の強化合宿をはじめ北海道、九州等の遠征では稽古や試合練習に心身共に疲労困憊の連続でした。初めての全国大会に緊張の中本戦では第3位の成績を取めることができ、この結果は私の剣道人生において最高の思い出となりました。振り返れば監督はじめ埼玉県の多くの先生方の励ましと厳しくも温かい御指導の賜であり、チームの団結があってこそと感謝してやみません。

その後も本県の女子剣道の躍進は目覚しく、各種大会で多くの実績を上げています。また近年は女子の高段者も増加し、指導的立場を担うことが期待されています。私自身も生涯剣道を目指しながらこれまで貴重な経験をさせていただいたご恩に報いるよう、剣道の普及発展に微力ながら努力する所存です。一人でも多くの女性が剣道に魅せられ活躍されることを願っています。

令和5～6年度 公益財団法人 埼玉県剣道連盟役員（順不同）

名誉会長	大久保和政（浦和）				
相談役	豊嶋正夫（浦和）	山中茂樹（加須）			
顧問	関口善行（深谷）	奥田昌利（蕨）	根岸一雄（東松山）	川合育三（熊谷）	
	神山芳男（浦和）				
会長	栗原憲一（狭山）				
副会長	◎齋藤茂樹（加須）	◎爲谷健一（東松山）	◎佐藤義則（浦和）	◎浅見真一（秩父）	
専務理事	◎増田吉男（草加）				
理事	◎加治屋速人（大宮）	◎佐藤理恵（学識）	（◎は業務執行理事）		
	矢部勇介（越谷）	関根剛（杉戸）	加庭栄之助（久喜）	大澤規男（行田）	
	豊島和（所沢）	北村尚義（川越）	小坂井啓二（飯能）	久保和秀（西入間）	
	齋藤俊博（川口）	内田明（朝霞）	中村好一（大宮）	穂谷野一敏（上尾）	
	半田栄一（鴻巣）	田中宏明（北本）	大河原直弘（熊谷）	根岸正樹（本庄）	
	金田孝行（警察）	森田智裕（高校）	佐藤忍（居合道）	瀧澤利行（杖道）	
	伊田登喜三郎（学識）	浅見雅代（学識）	塚越卓（学識）	金子優香理（学識）	
監事	會田紳次（浦和）	柳澤昌秀（上尾）			
評議員	坂田政司（草加）	加藤正道（八潮）	高瀬英治（越谷）	石島秀夫（吉川）	
	伊藤徳男（春日部）	島村勉（羽生）	小檜山泰治（行田）	峯岸保男（所沢）	
	猪熊孝文（東入間）	中山英宣（狭山）	弘中史（入間）	大久保勝示（川越）	
	大釜鉄太郎（飯能）	石井利幸（西入間）	片岡信行（東松山）		
	内田淳也（小川）	中島俊幸（川口）	奥田良一（蕨）	狩野聡（戸田）	
	柴田篤三（朝霞）	齋田求（浦和）	島村公平（大宮）	神谷昌広（上尾）	
	亀尾一弥（鴻巣）	金井裕（北本）	佐々木詳之（熊谷）	関根照雄（深谷）	
	宮下公成（寄居）	堀内睦夫（本庄）	吉橋守夫（秩父）	黒田亮一（小鹿野）	
	上條浩一（警察）	吉澤修（高校）	穠田清（大学）	山口隆一（居合道）	
	上田睦也（杖道）	坂井順司（学識）			
事務局長	渡邊秀樹				

範士受称にあたって

公益財団法人 埼玉県剣道連盟 会長 栗原 憲一

去る5月6日全日本剣道連盟の称号審査におきまして「剣道範士」の称号を受領させていただきました。未熟な私にとりまして、驚きと戸惑いで身に余る光栄と感謝しております。これも山中会長をはじめ埼玉県剣道連盟の皆様、また、全国の諸先生、諸先輩剣友の皆様の御支援の賜物と深く感謝いたし厚く御礼申し上げます。

思えば、小学生から竹刀を握り、長きに渡り地道に歩んできた剣道でしたが、昭和50年に全日本剣道連盟が発表した「剣道の理念、剣道修練の心構え」を指針に少しでも近づきたい思いで、全剣連合同稽古会、武蔵会各地稽古会、地区講習会、社会体育指導員講習会等に参加しながら、剣道を学ぶことを覚えていった気がします。

平成14年に八段に合格して、国体、都道府県対抗の審判員、六段・七段の審査員、外国での講習会の講師、社会体育指導員講習会の補助講師や講師を拝命して多くの先生方との良きご縁をいただくことができました。また、埼剣連の理事としてもいろいろな事業に携わることができ、先生方の御指導の下、審判員、審査員、講師を努めさせていただきました。これらを通して剣道を学ぶことは人間を学ぶことだと少しずつ理解できるようになったかなと思います。

今後はこの称号の重責を全うしつつ、心身の修養に努め、この道の発展のために微力を尽くす所存です。何卒、皆様には変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

八段昇段にあたって

埼玉県警察特練監督 剣道教士八段 米屋 勇一

今回の八段審査にあたり、どのような稽古、準備を行ってきたのか、また審査当日はどのような心構えで臨んだのかについて僣越ながら述べさせていただきます。

私は、36歳で七段審査に合格することができました。当時はまだ選手として各種大会に出場しておりましたので、八段審査を意識するというよりは、日々の稽古、目の前の試合を確実にこなすことに終始してきました。

そのような稽古の中において心がけていた点があります。それは、「構えを崩さない」、「掛かる稽古を行う」、「打った、打たれたで一喜一憂しない」の3点です。これは私の出身校である高輪高校、国士舘大学で常にご指導を頂いた点であり、私の剣道の礎にもなっている点でもあります。

その後、八段審査を少しずつ意識するようになったのは、全日本選抜剣道七段選手権大会（通称、横浜七段戦）に選手として出場させていただけるようになってからです。横浜七段戦は、七段の選手の修行の成果や今の実力を試す場であり、さらに八段を目指すステップとなる大会です。そのような大会に出場させていただき、同期生や先に八段審査を受審する方々と試合を行うことで八段審査が近いのだということを実感することができました。

私は38歳のときに、特別強化訓練員を退き、警察学校勤務を命じられました。これにより大きく稽古時間が変化しました。これまでは特別強化訓練員として一日おおよそ6時間稽古をおこなっておりましたが、それが朝稽古の30分のみとなってしまいました。これにより稽古に対する考え方が変化しました。これまでは、「如何に一本でも多く竹刀を振るか」を中心とした稽古に終止してきましたが、稽古時間が短縮されたことにより、「如何に質の高い打突をするか」を非常に考えるようになりました。今思えば、この考え方の変化が審査での全ての有効打突につながったのだと思います。

このような勤務状況の変化に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による稽古の禁止も、私の剣道や審査に向けての準備に大きく影響を与えました。当時の私は、機動隊剣道特別強化訓練員監督となり、心機一転特別強化訓練員との稽古を開始したばかりでした。先述したように警察学校に異動したときは、稽古時間は減りましたが全く行えない状況ではありませんでした。それが、全く稽古をすることができない状況になったときは、本当に焦りました。このままで審査に合格することは難しいであろうと考えました。そして稽古ができない期間が長期化すればするほど、焦燥感は増していくばかりでした。しかしある時、TV等で他種目のアスリート選手が、競技の枠を超えて励ましあい、メッセージを送っている姿を見て、私も自分のことばかり考えてはいけな、そのような心構えの者は到底八段には合格しないと気づきました。また稽古ができないのはすべての剣道家にいえること、私だけではないと考えました。そしてその後は、特別強化訓練員に私も含めずは我々ができることを精一杯、行おうと話をしました。

そのような中で行ったことが2点あります。1点目は、肉体の強化(特に体幹)です。私は剣道家の中でも、身体が大きい部類ではありません。それによって稽古中に当たり負けてしまうことがしばしばありました。これをまずはなくそうと考えました。2点目は、当たり前かもしれませんが「見取り稽古」を増やしたことです。今は、幸いにもPC、スマートフォン等で手軽に剣道の稽古、審査、試合が閲覧できるようになっておりますので、時間さえあればスマートフォン等で閲覧をしていました。また剣道のみならず他の武道やスポーツ種目についても閲覧をしました。対人競技を中心に身体の使い方等を閲覧し、これを自分の剣道に活かせないかと考えました。本当に活かせたかどうかはわかりませんでしたが、少しでもできることを探したのを今でも覚えております。

審査当日ですが、緊張でよく覚えていないというのが正直なところです。ただ一点、「七段合格後、色々紆余曲折あった10年間だったけれども、やるべきこと（出来ること）は、全てやってきた、それを審査会場で出しきろう。」と考えてことは覚えています。

以上が、拙い経験ではありますが、私の八段審査に向けて行ってきたこと、また審査当日の心構えになります。

今後は、皆様から賜りましたご恩に感謝しつつ、専心努力するとともに、後進の育成と埼玉県剣道連盟の発展に微力ながら全力を尽くす所存です。

第62回関東七県対抗剣道大会優勝を遂げて

監督：剣道教士八段 大澤 規男



令和5年7月23日(日)千葉県武道館で開催された第62回関東七県対抗剣道大会で埼玉県が18年ぶり7回目の優勝を遂げることができました。この結果は、埼玉県剣道連盟の多大なご支援と各選手が時間を惜しまず最大限の努力をしてくれた結果であり監督として心から感謝申し上げます。さて、この関東七県対抗剣道大会は、関東近県で互いに切磋琢磨し更なる技術の向上を図り、国体を中心とする全国大会等で好成績を挙げることを目的して大会が始まったと聞いております。私が若い頃、先生方から「関東を制する者は全国を制する」とよく聞かされておりました。それだけ関東には強豪が集まっていたということだと思います。そう言った意味からもこの関東七県対抗剣道大会は各県にとって重要な位置付けにある大会だと思います。本大会参加七県は、栃木県、神奈川県、山梨県、群馬県、茨城県、千葉県(地元2チーム参加)、埼玉県で、試合は8人制の団体戦、選手構成は、女性3人男性5人とし、4チームによるリーグを行い各1位のチームによる優勝戦で優勝が決定します。本県選手は、先鋒・小川梨々香(伊田テクノ)次鋒・志藤綾子(伊田テクノ)六将・村山千夏(県警)五将・貝塚脩悟(教員)四将・足立柳次(県警)三将・橋本佳一(伊田テクノ)副将・菊地博之(県警)大将・金田孝行(県警)の8人で臨みました。本県は、栃木県、山梨県、千葉県Bのリーグ戦となりました。初戦栃木県、先鋒、次鋒とも危なげない試合展開で試合が進み5対1で勝利、第2試合山梨県、女性3人がストレート勝ちし男子も内容のある試合運びで5対2と勝利、続く第3試合の千葉県Bでは先鋒が1本先取されるも取返し引き分け次鋒、六将と連勝し本県には有利な試合展開となりましたが、Bチームとは言え強豪の千葉県チームにじわじわと差を詰められました。本県も、粘り3連勝とし決勝進出を決めました。決勝戦は神奈川県と対戦、神奈川県は前回の優勝チーム又全日本選手権優勝者(高鍋選手)を率いる強豪県、しかし、本県も神奈川県に劣らない選手構成、女子は本年7月に行われた全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会(以下「都道府県女子大会」という。)優勝メンバーの中の3人と男子も全日本都道府県対抗剣道優勝大会(以下「都道府県大会」という。)で優勝した時のメンバー3人を含む全国優勝を経験する選手構成であります。試合は先鋒が絶妙な出鼻面で1本勝ち、続く次鋒が見事な面を決め連勝、この波に実力派の村山選手が相手を寄せ付けぬ強さで2本勝ちし都道府県女子大会のチャンピオンの実力を見せつけた試合内容でした。続く男子五将、四将が引き分け、三将が面を先取しここで本件の優勝が決まるかと思われましたが終盤2本返され敗退、副将、相手は全日本覇者の高鍋選手、菊地選手はリーグ戦の疲れも見られたが前半攻め続けるも一瞬居ついたところ小手を奪われ大将戦へ、ここまでのチームの対戦成績は3対2、本数は2本差、大将が1本取れば優勝が決まるどころ試合開始早々に諸手突きを先取される。しかし、ここは都道府県大会優勝時大将を務めた金田選手、返胴を決めて大将戦の終了を待たずに本県の18年ぶり7回目の優勝が決定しました。大会には栗原会長、増田専務理事を始め剣道連盟関係者の方々会場まで応援に来ていただき、会長からは都道府県女子大会の優勝に引き続き優勝を期待している旨の激励を頂き監督選手は気持ちが引き締まる思いを感じました。また、選手は本業の勤めがある中で時間を自ら作っての朝稽古や母校又は県警特練への出稽古等努力をしてきていたと聞きました。「日本一になりたかったら日本一の稽古をしろ」とこれも若い頃よく言われた言葉です。苦しい戦いで出せる一本は心の支えと弛まない努力であると強く感じた大会でした。

感謝

第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会優勝を遂げて

監督 金子 優香理



7月9日（日）に日本武道館において、全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会が開催され、10年ぶり二度目の優勝をすることができました。

この大会は、都道府県を代表とする女性剣士の全国大会として形を変えながら成長してきた大会と言えると思います。特に昨年からは、7人制の団体戦となり都道府県の年代別にみた選手層の厚さを感じさせるものとなりました。先鋒は高校生、次鋒は大学生、五将は20代、中堅と三将は30代、副将は40代、大将は50代という構成での団体戦です。4月2日に行われた予選会から熱戦が繰り広げられ、この日、先鋒以外の選手が決定しましたが、大変期待が高まるものとなったこ

とは言うまでもありません。

選手は、職業や年代も異なるため、全員が揃って練習を重ねることはできませんでしたが、それぞれが驚くほど意識が高く各所属における稽古は勿論、自主的に稽古時間を確保して大会への準備をしっかりと進めていきました。大会までの三ヶ月間に男子選手と一緒に県の強化練習も行われ、先生方に御指導をいただく機会にも恵まれました。大会一週間前に初めて選手全員が集まって最終調整の稽古ができましたが、大会に向けて一段と士気が高まり、効果的な内容となりました。

「優勝」という目標にあたり、チームとしては、初戦の佐賀県を一つの山と考えました。佐賀県には昨年一回戦で対戦し、僅差で敗れたことが記憶に新しく、来年の国民スポーツ大会開催県とあって強化に余念がないチームだからです。結果3(4)-1(2)に見るように緊張感のある初戦突破でした。2回戦は新潟を3(5)-0(1)で下し、3回戦が昨年の覇者である京都との対戦も2(2)-1(1)で、結果だけでは計り知れない緊迫した試合でした。7人制で行われる試合の、何が起るかわからない展開の面白さを味わうことができる大会ですが、先行している時こそ高まる緊張感は誰しもが感じていたはずでした。しかし頼れる若手陣と安定感のあるベテランがそれぞれの役割をしっかりと果たし、準々決勝の和歌山戦でも見事に勝利し、準決勝の東京戦はお互いによく知る相手だからこそ、攻めに徹した積極的な試合を展開し3(5)-0(1)で勝利し、決勝の大阪戦へと向かいました。選手の皆さんは前日から笑顔が多く、とても明るく元気でした。そして、決勝を目前にしても笑顔が絶えないチームでした。決勝は前4人で決めようという作戦通り、積極的な試合となりました。強い気持ちで試合に臨むことの大切さを改めて感じさせてくれる内容で、特に同門対決となった次鋒の小川選手は、相手に一本先取された展開となっても、果敢に攻めて連取し、勝利を収める圧巻の試合を見せてくれました。お互いの見応えのある技の応酬は、本当に見事でした。改めて言うまでもなく、今大会の選手の皆さんは経験値も高く百戦錬磨です。他都道府県の選手にとっては脅威であったことは間違いありません。監督という立場で携わらせていただきましたが、次から次へと期待感と信頼感でバトンをつないで全員が活躍していく面白さは味わったことがない時間でした。

念願の優勝を果たし、優勝扇、優勝旗を手にするのができたのは、ここまで沢山の御支援をいただきましたこと、当日は、埼玉県剣道連盟会長栗原憲一先生をはじめ剣連役員の先生方が早朝から応援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。そして、どこの都道府県よりもたくさんの応援をしてくれた高校生の皆さんと剣友の皆様大変ありがとうございました。大きな力をいただきました。幅広い年齢層の選手が一つになって戦うこの大会が、生涯剣道の素晴らしさを伝える大会となり、若い世代の皆さんが長く剣道に親しむきっかけになることを願います。

【選手】

大将 市村麻美子（朝霞） 副将 村山 千夏（警察） 三将 渡會 愛梨（高校）

中堅 志藤 綾子（東松山） 五将 小川梨々香（東松山）

次鋒 小川 真英（越谷・中央大3年） 先鋒 森 柚乃（本庄第一高3年）

「我が師を語る」 —美を追求する剣道 野澤治雄先生—

剣道 教士八段 神山 芳男

野澤治雄先生を語の原稿を埼玉県剣道連盟から依頼されました、文才がありませんが思いつくまま書かせていただきます。先生が逝去されてから早八年が過ぎました。先生との出会いは私が警察に奉職し、昭和37年剣道特練員として参加してからです。当時の私は昼間に稽古し夜間は所轄の交番で勤務し翌日は当番明けの2交代制勤務で、その後機動隊に異動し剣道が継続して出来る体制となりました。当時野澤先生は中堅的な存在で私達の身近な先輩でした。

先生は秩父郡三沢村（現皆野町三沢）で長瀨町の宝登山神社の宮司である父磐雄さん・母ヨシさん夫婦の男3人女5人の8人兄弟の6番目として誕生された、地元中学校から秩父農工高等学校（現 秩父農工科学高等学校）に入学し、剣道の経験は無かったが、同校の剣道指導者である南先生の体育授業ですり足の練習があり、南先生が「君はすり足がうまいから剣道部に入りなさい」と声を掛けられ剣道を始めるきっかけとなった。高校で3年間稽古に励み卒業時、南先生から剣道で有名な羽生市の興武館小沢 丘先生を紹介され内弟子となった。小沢先生は警察大学の剣道教授で勤務されていたが、時により随伴し警察大学に行く際、小柄で行動が素早い先生は、羽生駅のホームで「あれっ」と気付くと反対側のホームにおり、早く来いと手招きで呼ばれたこともあったとのことでした。小沢先生宅の一年間の生活でしたが、先生と稽古するのは警察大学校帰宅後、夜間の一般の方と一緒に稽古でした、その後埼玉県警察に奉職され警察学校を卒業すると、直ぐ若手の選手として関東管区警察剣道大会・全国警察剣道大会に出場した。当時は30代の選手が主で若手の21歳の先鋒選手として活躍、警察業務を執務しながら埼玉県警察の特練員の中心的な存在となり、更に警察術科振興責任者の主席師範として勤務された。

特に特練員の大きな変革は、昭和39年に埼玉県警察初の長期派遣を命ぜられ、6ヶ月間大阪府警察の馴れない地で厳しい稽古に耐えながらその中心的な立場として牽引された。その年の関東警察剣道大会では、帰県しそのまま合宿所にバスで送り込まれ大会に臨んだ。当日は大阪府警察師範の齋藤先生・長谷川先生（両先生は武道専門学校卒業）が来県同行され、選手編成等アドバイスを受け優勝し、全国警察剣道大会前に選手要員のみ再度大阪府警察へ派遣され稽古に励んだ、私も同行し必死に先輩達の姿について行き乗り越えることが出来た。

先生が大将で出場の昭和42年関東警察剣道大会で優勝し、同年11月開催の全国警察剣道大会では埼玉県警察初の二部第三位の成績を収めた、私は次鋒の選手として参戦したが、大将として対戦されている姿を憧れながら応援していたことを思い出します。

全国規模大会での多くの活躍がありますが、埼玉県剣道連盟初の全日本剣道選手権大会（昭和43年12月1日）三位入賞の輝かしい成績を収めている。試合についてお聞きした際、当日は気迫が充実し勝ち進み、準々決勝では有名な早稲田大学OB池田健二選手と対戦、面を先取したが警戒していた小手を取られてしまった、試合攻防の競り合いで面で勝った、そして準決勝では新潟県の小柄で上段の山崎正平選手との対戦では自分の剣道が出来ず負けてしまったとのことでしたが、全日本剣道選手権大会の第三位入賞は当時の埼玉県剣道連盟初の快挙でした。また、全日本東西対抗剣道大会には昭和48年・昭和49年と連続して先鋒で出場、平成9年第43回全日本東西対抗剣道大会の大将として出場し、大阪府警察出身の小林三留先生と対戦、東軍優勝で優勝旗・賞状を受領している姿は埼玉県を代表する誇りある先生です。全日本剣道連盟の重要行事である第102回全日本剣道演武大会（平成18年5月2日）で茨城県佐藤成明先生と日本剣道形を演武され、その姿が素晴らしく、吸い込まれるような演武であったとお聞きしている。京都大会で日本剣道形を演武される先生は、全国のなから推挙される1人でいかに全国的な存在であったかが窺える。

海外剣道普及活動では、全剣連派遣講師として昭和62年8月1日から1ヶ月間ハワイ剣道連盟の指導をされ、名誉会長であった赤城先生等地域の剣道愛好者から、指導方法等親切丁寧な指導と先生の人柄から、是非継続して指導をお願いしたいと懇願され、その後も毎年指導に行かれている。

地元の剣道愛好家の育成は、現在でも継続されている朝稽古があります。

昭和47年旧自宅の庭で長男に朝6時から出勤前に剣道を指導していると、付近の同級生と一緒に教えてほしいと毎日来るようになり、するとそれを聞きつけた人達が集まり、場所が狭くなったので付近の日産自動車株式会社の体育館を借用し続けた、体育館で稽古をしていると大人達も是非参加したいと150名位の大きな団体となった、自宅を平方小学校付近に移転したのをきっかけに平方小学校体育館で朝6時から朝7時まで継続して実施していた。現在の稽古場所は上尾市立太平中学校の体育館を借用し平方剣友会として継続されている。

剣道関係以外の活躍では上尾市教育委員に委嘱されている、教育委員の殆どが教育関係出身者ですが、その要職に推挙され平成16年10月1日から二期8年奉職されている、任期中も委員のまとめ役である教育委員長を平成21年12月から委嘱を受け、委員はもとより校長先生等学校関係者の要職の方を前に講演し教育関係についても貢献されているのです。

埼玉県剣道連盟の理事長を平成2年から平成10年まで市川会長・檜崎会長を補佐しその手腕を發揮し、一般財団法人認可のために心骨を注ぎ平成4年4月1日埼玉県教育委員会の認可に取り付けた、その後公益財団法人埼玉県剣道連盟の新たな出発を記念し「剣風」を発刊し、その巻頭言に埼玉県剣道連盟会長として言葉を遺している。全日本剣道道場連盟理事に平成20年から選任され、全国の青少年や道場連盟の指導者等剣道愛好者の技倆向上と底辺拡大に貢献されている。平成17年6月から埼玉県剣道道場連盟会長に就任され、参加団体が減少傾向の中で青少年の活躍の場を作ると同時に、各道場の指導者の技倆向上と底辺拡大に努め、加盟団体も増加し全日本剣道道場連盟からも賞賛されている、私も施策を実行する理事長として支援させていただいた。

野澤先生の剣道は、小沢先生の強さの中に有る「美」「華麗」の追求であると言われ、「剣道は美である」と常日頃から実践し努力されていた。警察学校と一緒に勤務している際ご指導を戴いたが、実現に向け継続努力しているところです。

先生はまだまだ埼玉県剣道連盟のためにご活躍され剣道発展に貢献される方でしたが、病には勝てず逝去されたことは誠に残念なことです。

令和5年称号・段位取得者一覧

第19号昇段者補遺 令和4年7月9日(土) (埼玉県立武道館)

剣道四段合格者

武田 和興(上尾)
新井 雄一(鴻巣)
大串 太一(熊谷)
島田 悠生(熊谷)
長嶋 昭浩(秩父)
古澤 勝頼(警察)
戸倉 隆明(警察)
石川 幹菜(警察)
中山 貴弘(高校)
吉川 増実(高校)
引地 瀬乃(大学)
江口 理恵(大学)
佐藤 和哉(大学)
松田 篤暉(大学)
鍋田晋太郎(大学)
福重 隆生(大学)
福地 弦太(大学)
堀 綺良(大学)
柳沼 朱哉(大学)
高橋 康志(大学)
高橋 侑輝(大学)

(剣風19号での剣道四段合格者の一部が掲載漏れとなりました。お詫びして改めて掲載いたします。)

令和5年2月18日(長野)

剣道七段

横川 隆明(越谷)
井上 博章(所沢)
森岡 高則(入間)
栗原 広行(川越)
田巻 学(朝霞)
松本翔太郎(浦和)
山岸 正夫(大宮)
佐藤 武彦(警察)
生沼 学(警察)
近藤 毅(高校)
関河 諒(高校)

令和5年2月19日(長野)

剣道六段

永島 二男(草加)
石川 元生(越谷)
草深 直也(越谷)
三木 秀人(春日部)
鈴木 雅夫(久喜)

二瓶 達寛(久喜)
知野 拓海(加須)
柚木 幸司(入間)
五十嵐孝次(西入間)
皆川 健(川口)
天野 武志(浦和)
古瀬 義彦(浦和)
小林 弥(浦和)
関口 達也(上尾)
佐藤陽一郎(警察)
志田 均(警察)
守田 直人(警察)
阿部 晋也(警察)

令和5年3月5日(京都)

居合道六段

松本 智子

令和5年3月10日(東京)

杖道七段

松浦富士雄

杖道六段

朝比奈辰樹

令和5年3月19日

(埼玉県立武道館)

杖道五段

羽鳥 欽一

令和5年4月2日

(埼玉県立武道館)

居合道五段

外處 正則(上尾)
高橋 真樹(飯能)
清水 清(鴻巣)
石井 隆之(久喜)
小林 正直(所沢)
梶塚 博文(大宮)

居合道四段

張 永成(小川)
三好 勇(大宮)
神谷 純好(東松山)
玉地 正明(西入間)
大久保勝示(川越)
高橋喜美代(川越)

令和5年4月29日(京都)

剣道六段

林 泰亨(所沢)
山内 聡(川越)
久保田一成(北本)

令和5年4月30日(京都)

剣道七段

酒井 正己(越谷)
宮本 泰典(蕨)
眞中 義治(大宮)
大澤 正樹(寄居)
平野伸一郎(警察)

令和5年5月2日(京都)

剣道八段

小林 憲司(警察)

令和5年5月3日(京都)

居合道練士

岸 徳夫

杖道練士

中澤 彰子
加藤 義明

令和5年5月6日(京都)

剣道範士

栗原 憲一(狭山)

剣道教士

牛山よし子(草加)
松倉 正典(加須)
中橋 隆夫(行田)
中尾 男平(東入間)
遠藤 利夫(入間)
堺 恭規(川越)
片岡 信行(東松山)

令和5年5月13日(愛知)

剣道七段

藤井 正幸(越谷)
矢澤 秀典(久喜)
古原 誠(所沢)
池澤 英明(蕨)
高橋 徹(浦和)
渡辺 健夫(浦和)
金澤千鶴子(浦和)
木村 一彦(大宮)
嶋崎 正博(寄居)
町田 竜志(秩父)
高橋 昌士(警察)
中村 浩之(警察)

剣道練士

井上 雅陽(杉戸)
大瀧 徹(久喜)
古谷 勇一(久喜)
萩原 健太(加須)
土本 欣之(所沢)
長谷川雅敏(川越)
菅沼 祐介(川越)
仲谷 光弘(飯能)
宮崎 信子(西入間)

中嶋 暢彦(小川)
佐藤 智子(川口)
平 健倫(蕨)
後藤 大樹(蕨)
白井 真紀(戸田)
山本 武史(戸田)
池野 千絵(戸田)
小島 一祐(朝霞)
古平 昌行(朝霞)

稲森 久士(浦和)
松本 和則(浦和)
柳沼 勉(浦和)
須賀田晴夫(大宮)
兒玉 孝文(大宮)
中村純一郎(大宮)
松林 祥史(大宮)
恩田 智厚(大宮)
町田 博美(上尾)
坂田 卓也(北本)
伊藤 裕太(北本)

忠 一樹(北本)
島野 徳久(熊谷)
中山 彰彦(警察)
飯島 正基(警察)
石塚 弘行(警察)
益子 貴義(警察)
早川 周一(高校)
竹内 佑樹(高校)
小山内政人(警察)

令和5年5月14日(愛知)

剣道六段

秋元 享(草加)
笹部 重雄(越谷)
小島 直(狭山)
丸山 陸(川越)

松澤 公明(川越)
青柳みゆき(飯能)
内野 明光(東松山)
猿橋 陽介(小川)
立河 大樹(戸田)
染谷 雅敬(大宮)
水谷 泰介(大宮)
福井 康太(秩父)
中村 志保(警察)

令和5年7月16日

(大宮武道館)

剣道五段

大井 直人(草加)
三澤 英治(越谷)
渡邊 捷太(越谷)
若林 正憲(東入間)
根岸 雅人(狭山)
松宮 志徳(狭山)
佐藤 悠二(川越)
田中 宏昌(川越)
柳澤 司(川越)
小梅 昌(東松山)
犬塚 慶一(川口)
中山 美紗(川口)
友安 孝之(川口)
安藤 玲(蕨)
辻 七海(朝霞)
櫻井 英行(朝霞)
神宮司 大(浦和)
赤井 健一(大宮)
大浦 眞吾(大宮)
内山木綿子(大宮)
泉 英太(北本)
金子 佳正(熊谷)
種綿 康幸(警察)
春木 裕成(警察)
池田 裕昌(警察)
野村 栞名(警察)

剣道四段

永野 俊輔(越谷)
尾形 幸彦(越谷)
石塚 享平(春日部)
中鉢 健之(春日部)
中内龍太郎(杉戸)
松平 和茂(久喜)
星野 絢音(久喜)
鈴木 黎(行田)
川村 直(所沢)
草野 潜(所沢)
北田 和寿(所沢)

深田 圭一(東入間)
二ノ宮雄介(東入間)
一柳 梨瑚(入間)
椎名 芳充(入間)
井砂 萌亜(川越)
上見 雄一(西入間)
渡邊 行雄(西入間)
小岩 謙斗(東松山)
宇田川雄生(川口)
溝口 克弘(川口)
山本 莞典(蕨)
小川彰太郎(蕨)

上原 壽道(蕨)
川手 海翔(蕨)
安村 謙佑(浦和)
丸山 裕喜(浦和)
佐藤 優樹(浦和)
西田 秀樹(大宮)
西澤 圭汰(大宮)
高橋凜太郎(大宮)
吉原 源剛(北本)
堀内 啓明(深谷)
堀内 達朗(深谷)
猿橋 佑紀(警察)
大場 猛史(警察)
皮籠石貴之(警察)
榎戸 大泰(大学)
古川 泰斗(大学)
市川 華帆(大学)
秋山 明優(大学)
松本 淳(大学)
杉本信乃介(大学)
成田 蒼央(大学)
石丸 千尋(大学)
大島菜々華(大学)
平岡 凜(大学)
藤井 啓史(国際)

令和5年7月21日

(栃木県立南体育館)

居合道七段

徳光 謙一
青木 四郎

居合道六段

牧野 綾
宇佐美壯太郎
平井 健
大熊富三郎
大場 弘
張替 薫

編集後記

新体制になっての第20号をお届けいたします。前回編集体制から引き継いだ内容で構成されていますが、栗原会長の範士受称をはじめ、八段昇段、関東七県優勝、全日本都道府県対抗女子優勝など喜ばしいお知らせで編集することができました。今後新しい企画を盛り込んでいく予定ですので、今後ともよろしく願いたします。(瀧澤)